



10月12日(土)
13日(日)

3年ぶりに開催

越ヶ谷秋まつり



ここが見どころ! 秋まつり チェックポイント

にぎやかな祭りのなかでも、特に注目したい見どころを紹介します。

山車引き揃え



8台の山車が集結
大きな山車がすれ違う様子は
圧巻です

古式ゆかしい 時代衣装



▲稚児巫女の行列

▲正式な衣冠の神官や、冠をつけた姫の姿も



▼大きな掛け声とともに山車の向きを変える

山車の 方向転換

江戸時代の越ヶ谷の文化を今に伝える越ヶ谷秋まつり。タイムスリップしたような気分になれるかも? ぜひお出かけください!

令和元年年番町 新石三総代
越ヶ谷秋まつり実行委員会
荒井 隆之さん



越ヶ谷秋まつりは、300年以上続く伝統の祭です。現在は、地元鎮守の神様のお祭り、地域住民による山車祭りの要素を持ち合わせています。

特に今年は、新しい元号になり、祝賀ムードの中で越ヶ谷秋まつりを盛大に行い、奉祝の気持ちを表したいと考えています。

祭りの運営は旧日光街道沿いの8つの町会が交代で年番を務めています。世代を超えて受け継いでいきたいという情熱的な考えのもとに、祭りに訪れる皆さんに楽しんでもらいたいという気持ちでいっぱいです。子どもたちも稚児巫女や山車行列への参加、木遣の稽古など、小さなころから関わっています。厳粛に行われる神輿の渡御・還御は古式ゆかしき形を今に残す伝統の儀式ですし、各町会自慢の山車の引き回しや、囃子方の競演、町内揃いの絵羽や鳶の半纏、各町会の獅子頭など魅力が満載です。

歴史と文化の担い手たちが団結し、祭を支えています。越ヶ谷町の人々の「心意気」と「粋」を肌で感じていただけたらと思います。皆さんのお越しをお待ちしています。

10月12日(土)・13日(日)に、越ヶ谷秋まつりが開催されます。越ヶ谷秋まつりは、旧越ヶ谷町で行われてきた五穀豊じようを祝う祭りで、江戸時代中期の元禄時代(1688年〜1704年)から伝わるものとされています。近年では数年おきに開催されており、今回は平成28年以来、3年ぶりに行われます。旧日光街道を巡る神輿や山車(※)の引き回しなど、見どころ豊富な越ヶ谷秋まつりをご紹介します。

江戸時代から受け継がれてきた旧越ヶ谷町のまつり

越ヶ谷秋まつりは2日間かけて行われ、久伊豆神社から神輿が出発する「神輿渡御」が始まります。渡御は300人以上の大行列となり、祭りの幹事役である「年番」の人々が先導、続いて衣冠(かん)単(たん)という正装姿の神官や、袴(はかま)・袴姿の旦那衆(だんなしゆ)、巫女(みよこ)の衣装に身を包んだ子どもたちなどが、厳かに進んでいきます。神輿が元荒川に架かる宮前橋を渡り、旧日光街道へ入ると、街道沿いにある八カ町(本町一〜三丁目、中町、新石一〜三、弥生町の各自治会)の8台の山車が出迎えます。ここからは山

大迫力の引き回し!

夜祭りも見逃すな!



▶ライトアップされた山車



ちょうちん 提灯の明かりが幻想的▶

越ヶ谷秋まつりでは、神輿渡御・還御のほかにも、2日間計4回、山車の引き回しが行われます。各町内の氏子衆が揃いの絵羽を身にまとい、重厚で威厳のある作りの山車を引く姿に注目です。地域の人々が一丸となって祭りを盛り上げます。山車はそれぞれ異なるデザインが施されています。なかでも、山車の最上部には各町会自慢の人形が飾られ、山車の迫力をさらに引き立てます。

各町会の山車が競演

その後、神輿は年番の町内(今回は新石三)に設置された御飯舎(おひい)に納められ、翌日、神輿が久伊豆神社に戻る「神輿還御」の儀式が行われます。車も行列に加わり、お囃子の笛や太鼓の音、市の無形民俗文化財に指定されている「越谷の木遣歌」などに乗せ、旧日光街道や越谷駅前を巡ります。

山車の引き回しは夜も行われ、2日間にわたり越ヶ谷のまちは祭り一色となります。※山車:祭りの際に引いたり担いだりする出し物の総称。花や人形などで豪華な装飾が施されていることが多い。曳山・屋台ともいう

越ヶ谷秋まつり会場案内図



スケジュール

10月12日出 神輿渡御 10時20分

久伊豆神社出発 11時10分ごろ

山車に迎えられ、町内に出発 13時20分ごろ

御仮舎に到着 16時18時10分、19時21時10分

山車引き回し

10月13日 神輿還御 13時30分

御仮舎から山車を従え、神社に出発 17時

久伊豆神社到着 10時30分、12時40分、19時21時10分

山車引き回し

*引き回し中の山車は危険ですので、近づきすぎず、関係者の指示に従ってください

*人混みに自転車を乗り入れるのは危険です



山車人形

落さないよう 慎重に!

山車には町会ごとに違う人形が乗っています。新石三の人形は胴体と足がほぼ一体、腕と頭は差し込み式で、分解した状態で保管しています。

かつては人形屋が町内に数軒あり人形の組み立て・着付けを行っていましたが、現在は休業中のため、すべて青年会が行っています。

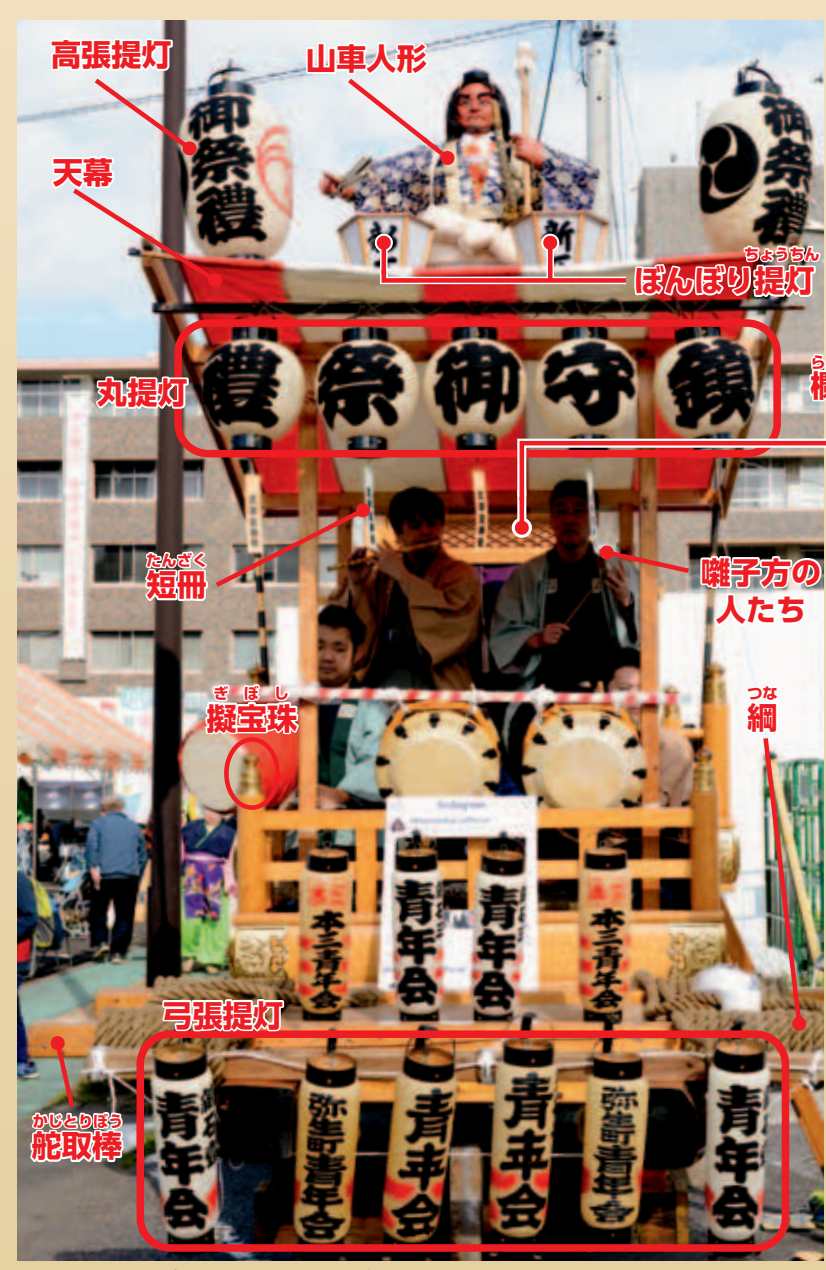
祭り当日の朝、山車の高覧上層に乗せられて渡御を迎えます。



車輪。提灯

山車は、引き回しの前に車軸を抜いて潤滑油を塗布し、二日間の引き廻しに備えます。

ぼんぼり提灯、高張提灯や囃子舞台の天幕、絹の紫幕などを飾りつけ、祭り前日の夕方、山車小屋から引き出して車輪を清めて出番を待ちます。



上層

高覧 (高欄ともいう)

囃子座

下層

【山車データ】

全長 18尺5寸 (約5.6m)

高さ 16尺5寸

*人形含む (約5m)

幅 7尺6寸 (約2.3m)

平成30年市民まつり会場に展示されていた新石三の山車

山車図解

八カ町の山車 全部見せます!

新石三 青年会長 大野 喜代司さん

新石三の山車は、昭和58年に改修され、ほぼ形を変えずに引き回しています。越ヶ谷小学校の近くに山車小屋があり、組まれた形で保管しています。車軸に負担をかけないようにジャッキアップし、浮かせた状態で布やシート等で養生しています。

改修当時は、町内に山車を組み立てられる職人がたくさんいたので自町内で改修作業が進められていました。ヒノキの台枠は、ねじれを補修し、車輪は改修前の古いものをそのまま使用しています。高覧部分は上層、囃子座、下層を全て作り変えました。米ヒバ材を使用し、出来上がった当時は真っ白な山車だったのですが、現在では年数を経て、いい色具合になりました。

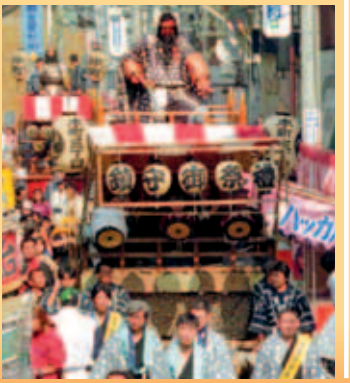
町の歴史が染み込んだ山車をご覧ください。

本町三丁目

昔話で有名なヤマタノオロチを退治した英雄。白木作りに紅白の天幕という昔ながらの作り



素戔鳴尊

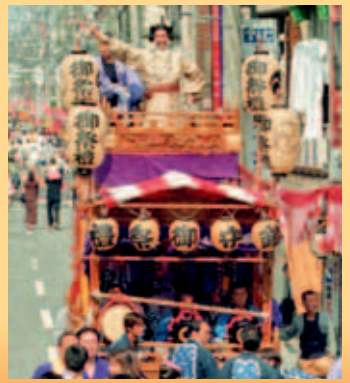


弥生町

刀を振り上げ、凛々しい姿で鎮座しているので遠くからでもすぐに分かる



日本武尊



中町

剣を持ち長い髭を蓄え大きな目でらむ学業成就の神様。囃子座の彫刻が特徴的 *新石二の人形と同じモチーフ



鐘馗



新石一

日本神話に登場し、日本を建国した初代天皇とされる。漆で塗られ光沢がある山車が特徴



神武天皇



本町一丁目

お面により龍神と人の2つの姿を持つ鼠屋武善作の人形。



龍神



新石二

中国の道教の神様。白木に紅白の提灯が特徴の山車。引き綱も紅白になっている



鐘馗



本町二丁目

忠義を尽くし文武に優れた名将。囃子座に屋根があるのが特徴の山車



楠木正成



新石三

歌舞伎の演目「勧進帳」安宅の関でおなじみ、山伏姿の弁慶にご注目!



弁慶

